

東陵高・男女17人

目を見て堂々 国際性を磨く

米大学生と英語キャンプ

能力の向上を図った。

1～3年の男女17人が参加した。日本向けに国際理解教育の交流キャンプを手掛ける「スポーツキャンプ・オブ・アメリカ(SCOA)」のジョン・ベストさん(57)、圭子さん(51)夫妻が全体進行や通訳を務めた。

圭子さんは「グローバル

ル社会の米国などでは人と会うとき、態度や姿勢がとても大事だ」とボディランゲージの大切さを強調。①相手としつかり握手する②目と目を合わせる③自分に自信があるという姿勢を見せる―の三つのポイントを紹介

した。大学生たちと自己紹介

し、アイコンタクトで気持ちを通わせるゲームなどを楽しんだ。

大学生はスタンフォード大、ワシントン大、コロラド大、カリフォルニア大ロサンゼルス校、南カリフォルニア大などの学生で、スポーツなど自分の経験を伝えた。

東陵高(黄川田守校長、生徒271人)は、米国の大学生14人を講師に、「夏休みミニ英語キャンプ」を気仙沼市入沢の旧気仙沼女子高体育館で開いた。グローバル社会で役立つコミュニケーション



自己紹介の練習をする生徒たち

3年の柴田優祐君(17)は「日本人は話すとき目を合わせないことが多い。これからは日本でも外国でも相手の目を見て話したい」と話した。